

国立循環器病研究センターで『災害研修DT-H』を実施しました！

日時：2019年11月10日（日）13:30～16:00

場所：国立循環器病研究センター

参加者：国立循環器病研究センター職員（理事長、病院長、研究所長、企画戦略局長、
OIC長、総務部長、管理責任者、総務課長、看護部、薬学部等）計63名

ファシリテータ：摂南大学大学院生2名、摂南大学学部生10名、教員1名、卒業生他5名

今回の見どころ

「災害研修DT-H」とは、2014年に摂南大学が開発した病院職員を対象とした図上訓練型災害研修プログラムです。地震時、病院には建物被害など医療行為以外の出来事も起こります。この研修はこれらへの対応を決める事が目的です。これまでに山形県、兵庫県、福島県、大阪府、鹿児島県等の病院で行いましたが、今回の研修は、循環器医療を専門とする国立循環器病センター（大阪府）で行いました。2019年にJR岸部駅直結の場所に移転したばかりで、災害に強い最新設備を持つ規模が大きい病院です。外来患者や一般の避難者など多くの人が避難してくることも想定されます。病院へ避難した人への対応などの事案に対して参加者はどのような話し合いをするのでしょうか。

プログラム実施風景



病院がJR岸部駅と直結していることや、病院が災害に強い最新の設備を持っていることを説明しました。



図面を使って設備の位置を確認しましたが、医療者は設備などを把握していなかったようです。



マスコミへの対応を決めるときに「自分の部署では対応できない」などの意見がありました。



給水車の搬入ルートを決める時に、病院図面を見て「どこから車を入れる？」と話し合っていました。



病院へ避難した人への対応として「入院患者か外来患者かわからない人の対応は困る」などの意見がありました。



各班で1番困った事案を決めたところ、「病院の避難所化」で一致しました。対策として「入口付近に人員を配置する」などが挙げられました。

プログラムの実施結果

研修前は、先輩や先生から「DT-Hは知らない単語が多いし、研修の中でも参加者からの当たりがキツイよ」、「今回は管理職しか参加しないから厳しいよ」と聞きました。また、「ファシリテータで班の成果の良し悪しが決まる」とも言われ、研修の成果物を出せなかったらどうしよう・・・と不安な気持ちになりました。しかし研修が始めると、参加者は病院へ避難した人への対応などについて真剣に話し合い、対応を書き出すシートが未記入になることはありませんでした。一方、私はファシリテータとして、「参加者からより多くの意見を引き出し、その意見が反映された成果物を作ってもらおう」を意識して取り組みましたが、演習のペースを乱すことを恐れてしまったために自分から話を振ることをためらってしまうこともたくさんありました。改めて、相手から意見を引き出すことの難しさを実感しました。大学での事前練習をきちんと行ったつもりでしたが、やはり当日のみに意識が集中していたように思います。今後は、本番の力のみで頼ることなく、研修風景をイメージしてあらかじめ参加者への質問を作っておくなど、事前準備に力を注ぎたいと思います。

今回のプログラムに参加して頂いた国立循環器病センターの職員の皆さま、ありがとうございました。